

畜産センター だより

畜産センターの使命

畜産センター所長 上村 浩一

昨年4月の人事異動で畜産センター所長を拝命いたしました。府内の畜産振興のため試験研究機関が担う役割をしっかりと果たすことができるよう微力ですが頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

当センターでは現場ニーズや行政課題に対応する試験研究を、同センター碓高原牧場では、和牛の生産基地として受精卵の生産供給を中心に新たに交雑種を活用した和牛増産や和牛繁殖農家の長期不妊牛を預かり、放牧や繁殖技術を駆使して妊娠させてお返しする預託事業等を実施しています。

当センターが取り組んでいる主な試験研究をご紹介します。乳牛の暑熱被害を少しでも軽減するため、グンゼ（株）が開発した冷感素材に給水ホースを装着し、気化熱で牛体を冷やす家畜用衣料「うしブル」を共同開発しました。現在、酪農家でも試験装着してもらい、改良を重ね、今年の商品化を目指しています。

また、海外では高病原性鳥インフルエンザ等の急性家畜伝染病が継続的に発生しており、国内への侵入リスクは依然高い状況にあり、発生予防対策として、安価な車両消毒装



当センター飼養牛の「うしブル」装着

平成30年3月
第16号

京都府農林水産技術センター

畜産センター

〒623-0221 綾部市位田町檜前

電話：0773-47-0301

FAX：0773-48-0722

MAIL:ngc-chikusan@pref.kyoto.lg.jp

URL:http://www.pref.kyoto.jp/chikken/

碓高原牧場

〒627-0248 京丹後市丹後町碓1

電話：0772-76-1121

FAX：0772-76-1123

置の開発やウイルスを農場内に運ぶネズミの侵入防止のため、センサーカメラによる養鶏場内での行動調査と鶏舎への侵入防止対策に取り組んでいます。

その他にも鶏への粃米給与による細菌定着抑制や生産コストを抑えた新たな京地どり作出等の試験研究を行っています。

畜産を巡る情勢は、輸入飼料価格の高止まりや子牛価格高騰が続き、また、TPP交渉やEPA大枠合意など依然先行き不透明な状況にありますが、こうした状況を踏まえ、京都府では畜産農家の生産基盤強化、畜産物のブランド化推進や担い手確保を重点課題とし、受精卵移植を活用した和牛増産や飼料米、WCS（稲発酵粗飼料）面積の拡大、牛肉の海外輸出、経営継承などの事業に取り組んでいます。

当センターでは、畜産農家の声を大事にし、生産基盤強化につながる試験研究を実施するだけでなく、その成果を多くの畜産農家に活用いただくよう関係機関とも連携し、畜産農家に足を運び、普及・定着まで確実につなげていくことを使命として頑張りますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



開発した車両消毒装置（半周型）

業 務 部 か ら

霜降り肉と血中ビタミンA濃度について

一般に、牛肉の霜降り度合は脂肪交雑(BMS:Beef Marbling Standard)で表されます。

BMSはNO.1～NO.12までの12段階があり、数字が大きいほど霜降り度合いが高くなります。

ビタミンAは、脂肪細胞(脂肪交雑の元となるもの)の発育を抑制する作用があることが知られています。和牛肥育牛は概ね30か月齢で出荷しますが、そのうち肥育中期と言われる14～22か月齢に給与するエサからビタミンAをできる限り制限します。

筋肉中の脂肪細胞が最も成長するこの時期に給与を制限することで、脂肪交雑が入りやすくなり、高級な霜降り肉を生産することができます。

しかし、ビタミンAは成長や繁殖に必須の栄養素であり、また、個体発生や生命維持に非常に重要な役割を担っており、欠乏すると盲目や肺炎、腸炎などを起こす場合があります。また、枝肉中に筋水腫(ズル)を

起こし、商品価値を落としてしまう危険性があります。

当センターでは、和牛肥育牛の血中ビタミンA濃度を特殊な検査機器(液体クロマトグラフィー)を用いて測定しています。

肥育牛の月齢に応じて、当検査を行うことにより、適正なビタミンAコントロールが行えるように肥育農家をサポートしています。

(業務部 林)



液体クロマトグラフィーによる分析

高病原性鳥インフルエンザ等の発生に備えて

府内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ等が発生した場合、被害の拡大を防止するためには迅速な防疫措置を行う必要があります。

当センターでは、京都府が備蓄している防疫用資材の一部を保管、管理しており、万一の発生時には迅速かつ円滑に資材を搬出できる体制をとっています。

備蓄資材は、動力噴霧器、防護服、長靴、マスク、手袋など40種類にも及ぶため、それぞれの保管場所を整理しています。

また、保管している22台の動力噴霧器は、燃料を注入してエンジンの作動状況と噴霧が適切に行えるかを毎年、確認しています。

さらに、渡り鳥が国内に飛来する時期を迎える前には、「所内対応マニュアル」に基づいて、資材の保管場所の確認、搬出手順、トラックへの積載等の訓練も行っています。

(業務部 極山)



動力噴霧器の作動確認



資材の積み込み

研究 支 援 部 か ら

粃米を60%給与するとカンピロバクター感染を抑制することを実証

ブロイラーに粃米を60%配合した飼料を給与すると、粃殻をすり潰すために筋胃（砂肝）の活動が活発となり、筋胃が通常の約1.5倍の大きさになります。また、筋胃内部が低いpHで維持されることにより、カンピロバクターの定着が抑制されることをこれまでの研究で確認しています。

今回、カンピロバクター陽性農場において感染抑制効果の実証を行いました。初生のブロイラー（試験鶏）に2週齢から粃米を60%配合した飼料を給与した結果、試験期間中、農場飼養鶏はカンピロバクターに感染していましたが、試験鶏は8週齢の出荷までカンピロバクターに感染しませんでした。粃米60%飼料を食べた鶏は発育も良好で、肉質は出荷先でも通常のトウモロコシ飼料を食べたブロイラーと遜色無く、好評でした。

来年度は、規模を拡大して実証の取り組みを計画しています。（研究・支援部 中野）



← 粃米 60%
配合飼料



大きく発達した筋胃（粃米区）

HPAI発生リスクを低減するために鶏舎のネズミ侵入経路の解明に着手

高病原性鳥インフルエンザ（以下HPAI）の発生要因の一つとして、ネズミなどの野生小動物が鶏舎内にウイルスを持ち込むことが疑われています。

平成28年に行われた国の農場におけるネズミの行動調査では集卵バーコンベアや除糞ベルトの出入口の開口部から鶏舎内外を往來するクマネズミの存在が確認されており、野鳥だけでなく、ネズミ等の野生小動物の鶏舎侵入防止対策が重要です。

当センターでは、今年度より大型ウインドレス鶏舎2棟以上を保有する農場を対象に、聞き取り調査と目視調査を行うとともに、センサーカメラを設置し、ネズミの侵入の有無や侵入時間帯等ネズミの行動調査を行っています。

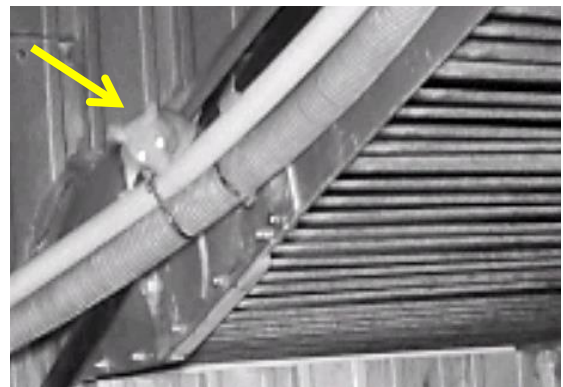
その結果、国の調査結果と同様に集卵バーコンベアや除糞ベルトの開口部周囲でネズミのほか、キツネやネコの存在も確認しました。

撮影動画を農場において確認し、農場と家

畜保健衛生所とも情報共有を行い、ネズミ対策について検討、実施しています。

また、対策実施後もセンサーカメラによる撮影を継続し、防除効果の検証を行っています。ネズミの鶏舎周囲での行動を解明し、効果的な防除対策を行うことによって、HPAIの発生リスクの低減を目指します。

（研究・支援部 上羽）



集卵バーコンベア開口部付近
に現れたネズミ

農場の出入口に設置する自動式車両消毒装置（第2報）

畜産農場への車両を介した家畜伝染病侵入防止には、消毒ゲートを備えた自動式の車両消毒装置の設置が有効ですが、多額の導入コストがかかることから中小規模農場での設置が進んでいません。当センターでは昨年度に市販装置よりも安価で簡単に設置できる車両消毒装置を開発し、前報（センターだより第15号）でその概要をお伝えしました。

その後、当センターでは農家からの意見や実証試験において明らかになった課題等を整理し、装置の改良を進め、車両の出入りが頻繁な中規模以上の農場を対象に約35万円で作成できる全周ゲートを備えた消毒装置を開発しました。

この装置は、大型貨物車が通行可能な全高5メートルの全周型消毒ゲートを備え、車体底面やタイヤ部分のみならず、天井面を含めた全周囲に消毒液を散布することができます。

また、これまでは人手に頼っていた消毒薬の希釈やタンクへの給水作業を全自動で行う

装置を新たに組み込み、管理作業を大幅に省力化することが可能となりました。

現在、当センターでは当該装置の普及を進めており、当センターや南丹家畜保健衛生所に設置し、入構車両の消毒用に実際に使用することで実証展示を行っています。ご興味を持たれた方はお気軽にご相談ください。

（研究・支援部 河村）



当センターの車両消毒装置（全周型）

稲WCS（稲発酵粗飼料）の高品質化を目指す

稲WCS（ホールクロップサイレージ）は、稲の子実と茎葉を刈り取り、ロール状に梱包した後、ラッピングし、サイレージ化した牛の飼料です。

府内では、平成26年度にJAが専用の大型機械を整備されたことにより、栽培面積は平成26年の53haから現在、108haへと増加しています。生産された稲WCSは酪農家を中心に給与されていますが、農家からWCSの品質向上の要望がありました。

そこで、当センターでは、早生品種と高糖分型品種を活用して高品質な稲WCSを生産することを目標に農業改良普及センターと共同でモデルほ場を府内各地に8か所設置し、タスクチーム活動を展開しています。

今後も、活動成果を報告し、より多くの畜産農家に、高品質な稲WCSが供給できるように技術指導や供給体制づくりを支援していきます。（研究・支援部 荻野）



飼料用稲の刈り取り



生産したラッピングサイレージ

畜産農場に設置された脱臭装置の稼働状況調査と改善指導

畜産農場の大規模化や農場周辺環境の変化に伴って、地元の住民から新たな臭気対策を求められる事例が増加しています。しかし、畜産農場の堆肥舎や堆肥化施設（縦型コンポ等）に併設されている脱臭装置は、しばしば脱臭の機能が低下していることがあります。

当センターでは、脱臭装置の機能を回復させるために、送風機の変更やアンモニアを酸化する細菌の投入、脱臭効果の回復状況の点検などの取り組みを行っています。特に、高温かつ高濃度のアンモニアガスが発生する縦型コンポに併設される脱臭装置は、脱臭槽内部に生息する細菌が死滅しやすいので、高濃度のガスの希釈や冷却などの方法も組み合わせ、脱臭装置の改善を図っています。

脱臭装置の稼働状況の調査や脱臭装置の設置の要望がある場合には、当センターにお問い合わせください。（業務部 安富）



脱臭装置の稼働状況の調査



アンモニア酸化細菌の投入

図面発注方式による污水处理施設の設置

当センターでは、13年前から図面発注方式による污水处理施設の設置を進めてきました。

この方式は、農家の要望があった場合に、当センターが設計書を作成し、農場に提出します。また、施工に際しては、地元の土木業者、電気事業者、または自力施工によって処理施設を設置できるよう、当センターが施工指導を行い完成させます。

昨年8月に、府内で9か所目となる污水处理施設が完成し、運転を開始しました（写真上）。この施設は、鶏舎の洗浄水を浄化処理するため、設置されましたが、将来的には、GPセンターから排水される鶏卵の洗浄水の処理にも使用を予定しています。また、空牛舎になっていたスタンション式の乳牛舎をフリーストール牛舎へ改修する工事が行われましたが、併せて通路の牛尿やパイプラインミルクの洗浄水を処理するための污水处理施設も図面発注方式で設置しました（写真下）。

当センターでは、污水处理施設の設置の要

望に応えるため、今後もこの方式による安価な施設設置の取り組みを行っていきます。

（業務部 安富）



養鶏場の污水处理施設



酪農家の污水处理施設

碓 高 原 牧 場 か ら

平成 28 年度子牛せり市の概要

平成 28 年度中丹家畜市場で取引が成立した子牛の血統構成と父牛別の成績を紹介します。

1 子牛の血統構成

子牛の父牛別出荷頭数割合は、隆之国が最も高く、次いで美国桜、久百合、美津照重、安福久、芳之国となりました。母牛の父牛別出荷頭数割合は百合茂が最も高く、次いで忠富士、勝忠平、安福久、金幸となりました。藤良系の種雄牛を父に持つ繁殖雌牛が少ないことから、隆之国、美国桜、芳之国といった

藤良系の種雄牛が多くの割合を占めていました。

2 子牛の父牛別成績

主な種雄牛別に価格を比較すると、隆之国を父に持つ子牛は去勢、雌ともに平均より高く、久百合は平均より低く取引されてきました。美国桜、安福久は雌の価格が高く、美津照重は去勢の値段が高い結果となりました。

(碓高原牧場 岩田)

父牛別出荷頭数割合

種雄牛	隆之国	美国桜	久百合	美津照重	安福久	芳之国	徳悠翔	幸紀雄	福華1	第1花桜	その他	全体
頭数	139	61	52	41	25	25	21	17	15	14	101	511
割合	27.2%	11.9%	10.2%	8.0%	4.9%	4.9%	4.1%	3.3%	2.9%	2.7%	19.8%	100.0%

母牛の父牛別出荷頭数割合

種雄牛	百合茂	忠富士	勝忠平	安福久	金幸	隆之国	平茂勝	菊幸	安平安	安茂勝	その他	全体
頭数	81	64	62	54	45	42	27	14	10	8	104	511
割合	15.9%	12.5%	12.1%	10.6%	8.8%	8.2%	5.3%	2.7%	2.0%	1.6%	20.4%	100.0%

種雄牛別出荷頭数・価格(税抜)

		種雄牛					
		隆之国	美国桜	久百合	美津照重	安福久	全体
去勢	出荷頭数	79	23	27	23	14	280
	平均価格	¥ 771,810	¥ 741,304	¥ 715,926	¥ 774,957	¥ 755,857	¥ 762,464
雌	出荷頭数	60	38	25	18	11	231
	平均価格	¥ 706,400	¥ 781,868	¥ 672,720	¥ 678,667	¥ 755,727	¥ 692,043

和牛繁殖雌牛預託事業について

府内の繁殖農家戸数は年々減少し、平成 18 年度に中丹家畜市場で 681 頭であった子牛の取引頭数も 10 年後の平成 28 年度では 516 頭と 2 割以上の減少となりました。

府内産和牛子牛の安定した生産は府内肥育農家から強く望まれています。

そこで、碓高原牧場では、高能力な府内産和牛の増産を目的に、農家が長期不受胎に悩む繁殖雌牛を当场で預かり、放牧やパドックでの運動、診療技術により受胎させ農家に返却する「繁殖雌牛預託事業」を開始しました。

初年度である平成 28 年度は 5 月から合計 29 頭の不受胎牛を預かり、11 月末までに 20 頭を受胎させることに成功しました。受胎した牛の中には 1 年以上不受胎だったもの、10 歳を超える牛もあり、農家の方々に大変喜ばれました。

今年度も 5 月から計 32 頭の牛を預かり、現在人工授精や受精卵移植を進めています。

預託期間は 11 月までですが、貴重な資源である繁殖雌牛を有効活用するため、1 頭でも多くの牛を受胎させ、農家に返却できるよう毎日努めています。(碓高原牧場 山内)



放牧中の預託牛

レンタヤギとふれあい牧場について

碓高原牧場では、家畜の放牧を活用した除草による地域の景観保全への支援と地域で家畜を飼う魅力のアピールを目的に、平成14年度から牛やヤギをレンタカウ・レンタヤギとして貸し出しています。

また、碓高原牧場に付属するふれあい牧場は隣接のステーキハウスとともに丹後地域の観光スポットとして位置づけられ、ヒツジ、ヤギ、ミニチュアホース等が飼養され、来場者とのふれあいに活躍しています。碓高原は年間3万人前後の来場者があり、保育所から高校の教育機関にも動物とのふれあいや校外学習の場として活用されています。

レンタヤギの貸出期間は、4月1日から11月30日までで、貸出料は1日1頭当たり11円です。ヤギは草を食べる量が少ないため牛ほど除草効果は高くありませんが、小柄であるため取り扱いが容易で、狭く急峻な土地でも活用できる利点があります。ヤギは人懐こく、地域のアイドルとして共通の話題になり、地域コミュニティの醸成にも役に立っています。

昨年度は、府内5か所に8頭のヤギを貸し出しましたが、次年度も利用したいとの希望も多く、ヤギの指名をされる方もおられます。

ヤギは、子ヤギが離乳するまで親子で広場におり、離乳後、順次貸し出し、今年度は、7か所11頭の実績となっています。目的は、除草が4か所、教育が2か所、観光（賑わいづくり）が1か所で、幅広く活用されており、今後も要望に応え、積極的に取り組みます。

（碓高原牧場 安藤）



ヤギの入学式（小学校に貸出）

京のこだわり畜産物生産農場登録農場を訪ねて

～ 酪農 ～ 弓立牧場（南丹市）

今回は、南丹市美山町にある弓立牧場を訪ねました。経営主の今井さんは自営業がしたいという夢を持って大阪から美山町へ移住され、新規就農されました。今年で10年目の節目を迎えられました。現在フリーストール牛舎で約60頭飼養されており、弓立牧場の牛乳は、地元の「美山牛乳」として地域の特産品にもなっています。弓立牧場の一番のこだわりは、牛の健康を考えた飼い方。牛の健康を追い求めることはコストの理にもかなっていないと力強くおっしゃいます。牛にストレスを与えないように心がけ、おいしい牛乳を出荷することをモットーにされています。

また、調子の悪い牛がいる場合は、原因を考え対処することで問題が解決できたとき酪農のやりがいを感じると前向きに牛と向き合っておられます。地域の方との交流にも積極的で、美山牛乳を使った商品を販売されているお店の方の農場訪問をいつでも受け入れ、どのように牛乳を生産しているかを見てもら

うことにより信頼を得ています。いつ訪れても牛がキレイで、おが粉でふかふかのベッドで牛が休んでおり、地元のパン屋さんなど、今井さんの牛の写真を店内に展示されています。酪農の魅力を伺うと、「子守りができるのも良い」と家族との時間も大切にされています。

今後のビジョンを伺うと、ICT技術も視野に入れて労働力の削減も検討しながら、増頭したいと語ってくださいました。地域の方からも、訪れた観光客からも愛されている美山牛乳をこれからも守っていかれる若い力に期待が高まります。（研究・支援部 岩崎）



今井 範和さん

～ 肉用繁殖牛 ～ 農事組合法人 和知町升谷畜産鴨谷分場（京丹後市）

（農）和知町升谷畜産振興組合は、和牛子牛の生産から肥育までの一貫経営を行い、出荷した牛は経営母体の（株）モリタ屋（京都市）により京都産牛肉として流通・販売が行われ、まさに「Farm to Table（農場から食卓まで）」を一つの経営体で行っている京都府内でも数少ない企業です。

今回訪問した鴨谷分場（京丹後市）では、その子牛生産部門として和牛繁殖牛 83 頭、子牛 32 頭が飼育され、子牛は約 6～7 か月齢で肥育管理部門である升谷畜産本場（京丹波町）に移動します。鴨谷分場では平成 27 年度の畜産クラスター事業を活用して、牛舎の増改築等の整備を行い、繁殖牛を 102 頭まで増頭する計画です。また、平成 28 年度からは「京のこだわり畜産物生産農場」として登録され、京都府産の安心・安全な畜産物の生産に従事する農場としても日々取り組んでおられます。そのため、清掃や消毒といった農場内の衛

生の向上について、これまで以上に意識するようになったとのことです。また、畜舎内の牛たちはゆったりと飼われており、牛 1 頭あたりのスペースもさることながら、分娩前 1 か月には分娩房に入り、分娩後 1 か月は親子水入らずで過ごすという、ソフト面でもゆとりがあり、牛へのストレスをなくす努力をされています。

（碓高原牧場 牛島）



牧場のスタッフ

～ 肉用肥育牛 ～ 農事組合法人 和知町升谷畜産振興組合（京丹波町）

（農）和知町升谷畜産振興組合は、京丹波町和知、由良川水系の畔に位置し、現在 11 名の職員により約 800 頭の和牛が飼育管理されています。今回、本組合の顧問である若松繁さんにお話をお伺いしました。

本組合は、昭和 56 年に京都市内で精肉販売や飲食店を営む「モリタ屋」の系列牧場として創設されました。素牛の導入は、鹿児島県の他、系列農場である鴨谷分場（京丹後市）から行っています。

飼養管理のポイントについて尋ねたところ、なにより健康であることが最重要であり、伝染病予防のために全ての牛舎に防獣ネットを設置し、野生鳥獣の侵入防止を図るとともに、早朝から十分な観察を行い、病気の早期発見・早期治療に努めているとのことです。

また、職員を担当牛舎に配置させることにより、各自に責任感を持たせるとともに、牧場の管理マニュアル以外にも、自らの工夫を凝らすよう指示をしているとおっしゃっていました。

一方、肉質について伺うと、育成期に上質な乾草を十分に給与することが A4、A5 の上物率 80% 以上の好成績につながっているとのことです。最近では旨みの指標とされているオレイン酸測定にも取り組み始め、「安心・安全」で「美味しい」牛肉生産の技術向上を追求していきたいと意気込まれています。

過去には牧場を退職後、農場経営を始めた職員もいるとのことで、「牛作りだけではなく、若い後継者育成についても役立てれば」と語っておられたのが印象的でした。

（碓高原牧場 山内）



右から森組合長、若松顧問、白数前組合長

～ 養豚 ～ 株式会社岸本畜産（京丹波町）

今回は、平成28年に「京のこだわり畜産物生産農場」に登録された、京丹波町にある岸本畜産を訪問しました。

先代が昭和52年に子豚生産農場を母豚8頭からスタート、昭和60年からは一貫経営に切り替え、現在は息子夫婦を中心に母豚80頭の規模で「京丹波ぼーく」を生産されています。また、平成24年から肉質や肉味は良いが飼養が難しいデュロック種を自社ブランド豚「京丹波ぼーく」として販売をスタート。今は飼養頭数のうち1割が京丹波ぼーくだそうで、地産地消にこだわり、地域の道の駅やスーパーで販売されています。

飼料は、人工乳給与後期以降からは先代が特に力を入れ飼料原料や配合割合にこだわりを持って確立された自家配合飼料100%を給与されています。また、豚が夏でも快適に過ごせるように細霧装置やスプリンクラーを設置し、豚がストレスなく過ごせるようタイヤや鎖等の遊具も置かれています。特に、小規模ならではの目の行き届いた飼養を大事にさ

れています。

養豚をやっている良かったことを伺うと、「お客様においしい」と言ってもらえることで、自社で生産物の販売をはじめてからは、直にお客様とふれあう機会が増えたそうです。

今後は、長く養豚業を続けていき老舗のようになりたいとおっしゃっていました。また、「頑張っているものを作っていれば必ず消費者の目にとまる」と言われ、熱のこもった顔をされていたのが印象的でした。これからもおいしい豚肉の生産を期待しています。

（研究・支援部 矢田）



スタッフの皆さん

～ 採卵鶏 ～ 湯浅農園（南丹市）

南丹市園部町で平飼養鶏場を営む湯浅農園を訪ねました。昭和40年に父と二人で鶏舎を建て、200羽の採卵鶏を飼い始め、現在、約2000羽の純国産鶏「もみじ」を平飼い飼育されています。昨年の2月には、「京のこだわり畜産物生産農場」の登録を受けられました。

ここでは、最近では珍しいヒヨコから自分で育てる「自家育雛」をされ、飼料にもこだわりと工夫が見られます。飼料の半分以上を占める穀類は一般的にはトウモロコシが利用されますが、価格高騰を契機に、いち早く府内産の飼料用米・麦・小麦のブレンドに変更しました。また、府内で製造されているごま油と醤油の絞り粕も配合するなど、飼料原料のほとんどが京都府内産という、こだわり飼料を鶏たちに給与されています。

また、夏には鶏舎の屋根に散水し、鶏たちの暑さを和らげる工夫もされています。鶏舎内を覗くと、床にはたっぷりとモミガラが敷きつめられ、鶏たちがゆったりと過ごしてい

ます。

「父親から学んだことを忠実に守って鶏を飼ってきただけ」とおっしゃいますが、そのひとつひとつの取り組みが「こだわり」として認められ、登録につながったのだと思います。

現在、農業の傍ら父を手伝う息子さんは、「こだわり畜産物のロゴマークのシールを作って、たまご販売に活用したい。消費者に、認知してもらえよう、登録制度の認知度向上に期待しています」とおっしゃっていました。（研究・支援部 西井）



湯浅さん親子

～ 肉用鶏 ～

宇野養鶏場（京丹後市）

京丹後市弥栄町にある宇野養鶏場では、ブロイラーを年間12万羽出荷されています。

ブロイラーを育てる上で一番のこだわりは飼育密度で、普通は60羽／坪のところ、51羽／坪でゆったりと飼育されています。鶏をゆったりと育てるとストレスがかからないことから病気が少なく増体も良いとのこと。

また、鶏舎に発電機を設置されており、停電などの非常時に3時間程、全鶏舎の電気をまかなうことができます。実際に使用することは年に1回あるかないかだそうですが、発電機を設置していることで、非常時に焦ることなく、安心して対応できるとのこと。

こうしたこだわりの取り組みにより、平成26年9月に「京のこだわり畜産物生産農場」に登録されました。

また、鶏ふんは堆肥化し、近所の家庭菜園をされている方から大規模農家まで多くの方に使われています。堆肥の評判は良く、堆肥舎は常に空に近い状態ですが、「鶏ふんを使ってもらえる方から採れた野菜などを頂いたり、喜んでもらえる」と地域とのつながりを感じら

れ嬉しい」とおっしゃっていました。

今後は、養鶏以外にも飼料用米栽培などの農業にも幅広く手を広げていきたいとのこと、益々のご活躍が期待されます。

（研究・支援部 中野）



宇野貞夫さん

～ あい鴨 ～

山城農産株式会社白川種鴨農場（宇治市）

宇治市に本社がある山城農産株式会社で生産されるあい鴨は、「京鴨」の名で商標登録されて30年目を迎えました。

英国チェリーバレー種を種鴨から飼育し、孵化、肥育、精肉加工まですべての行程を自社で管理されています。

快適な飼育環境にこだわるとともに長年育成方法を研究する中で培われた技術により生産された「京鴨」は、京の伝統文化京料理に合う、臭みもなく日本人好みのあい鴨肉になっています。

肉の味の決め手となる飼料へのこだわりは、国内唯一のあい鴨専用の飼料を飼料メーカーと共同開発し、肉質が常に最良の品質になるよう、日本の四季に合わせて変更されています。また、あい鴨がストレス無くのびのびと過ごせるように丁寧な飼育を第一に心がけ、毎日新しい敷料を敷きつめ、良好な日当たりと風通しのよい清潔な飼育環境を維持されています。

このように高品質なあい鴨肉生産のために独自のこだわり技術により「肉質を変えずにさらにおいしく」と、現在も意欲的に新たな方法に取り組みられています。

今後もあい鴨肉のおいしさを全国へと広げていっていただきたいと思います。

（研究・支援部 上羽）



社長の小山展弘さん（本社前）

【編集後記】

今年度（平成29年4月1日付）の定期人事異動による転入者は下記のとおりです。

転入者		転入元
氏名	所属・職名	
上村 浩一	所長	農林水産部畜産課
曾根 久善	副所長	土地開発公社北部事務所
極山 太	業務部・主任研究員（総括）	南丹家畜保健衛生所
大谷 健太	業務部・技師	中丹家畜保健衛生所
村上 知之	研究支援部・主任研究員（総括）	農林水産部畜産課
矢田 桃子	研究支援部・技師	新規採用
牛島 留理	碓高原牧場・技師	当センター業務部

当センターのホームページもご覧ください <http://www.pref.kyoto.jp/chikken/>